

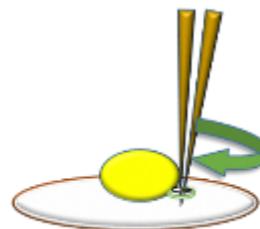
web 版

地協ニュース

ときたまご

令和6年3月5日（火）号

山形市教育委員会 社会教育青少年課発行

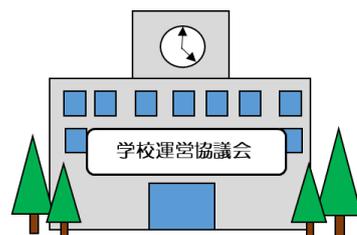


委員と教職員による「熟議」で生み出された地域学校協働活動 ～千歳小学校における「CSと地域学校協働活動の一体的推進」～

12月12日（火）に行われた第3回学校運営協議会では「今後の地域との連携」というテーマで熟議が行われました。熟議には委員だけでなく、先生方が全員参加しました。

委員のみなさんは6月の第2回学校運営協議会で、千歳地区の自慢や課題、学校と一緒にできること・やりたいことを明らかにしています。一方で、先生方は「多くの地域の人に学校の活動に関わってもらいながら、地域全体で子どもたちを育てていくことができる環境を構築していきたい」という思いがありました。

この熟議において、地域と学校の思いを実現するためのたくさんのアイデアが出され、まさに「学校と地域お互いのやりたいという思いがマッチング」した地域学校協働活動が生み出されることになりました。



初めて学校運営協議会に参加した先生方から次のようなお話を伺いました。

- ・委員の方にはどんなことでも受け入れてくれる温かい雰囲気があった。
- ・委員の方の地域や学校に対する熱い思いを感じた。また、子どもに伝えたいという思いや、やってみたいという思いを持っていらっしゃることがわかった。
- ・千歳小学校の教員でありながら、千歳地区のことを知らなかった。子どもたちは地域で育っていることを感じた。
- ・顔を合わせることで地域の方との距離が縮まった。学校運営協議会に参加したことで、お互いに顔を覚える機会になった。
- ・顔がわかることで安心できる。会ったことがないとお互いに不安ではないか。
- ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動はこれまでよく見えていなかったが、参加してみて「こういうことか」と納得できた。
- ・学校と地域お互いの「やりたい」という思いがマッチングしたときに授業として実施することが可能になり、それによって双方にメリットが生まれ、WIN-WINの関係になるのではないか。

この学校運営協議会で生み出されたのが「千歳小地域ふれあいタイム」です。毎週火曜日の「ロング昼休み」に、学校に設けられた「地域サロン」に地域住民が集まり、児童とふれあいながら安全を見守るというものです。児童の安全を守るためのルールを設け、参加者のみが学校に入ることができるようにしました。また、互いの負担とならないよう、連絡はメールのみで行うことにしています。1月に学校運営協議会会長と校長の連名で、地域住民への案内を行ったところ、8名の登録がありました。

第1回となる2月13日（火）、学校に4名の地域の方が集まりました。参加した理由などについて、次のようなお話を伺いました。

- 学校運営協議会の話し合いの場にいたので、自分も参加したいと思った。
- 夜に地域で子どもたちに「田植え踊り」をしているが、昼も子どもたちに何か還元できたらという思いがあった。地域と学校での子どもの様子の違いにも興味があった。
- 新しい校舎がどのように活用されているのか知りたいという思いがあった。
- 学校と関係がある様々な地域団体で役をしているので、学校に協力したいという思いがあった。また、子どもとのふれあいや見守ることに関心があった。
- もちろん子どもたちのためではあるが、ふれあうことは私たちにとってもいいことだと思う。
- 大人と子どもの交流の場は大人にとっても必要だが、もしかしたら子どもたちも必要だと感じているかもしれない。
- 地域で子どもたちにあっても気軽に声をかけられない。学校に交流の場があることで話すことができる。

昼休みが始まると、さっそく廊下やグラウンド、体育館に向かい子どもたちを見守っていました。子どもたちは地域の方を見つけると、「一緒に遊ぼう！」と誘ったり、「何人いるの？」と尋ねたり、興味津々の様子です。地域の方同様、子どもたちも「ふれあい」を楽しんでいました。

昼休みが終了すると、地域の方は「楽しかった！」と言って戻ってきました。感想を交流する中で、「ふれあうための道具があってもよいのではないか」、「こんなコーナーをつくってはどうか」、「子どもたちにもっと話題を提供したい」という意見がありました。「千歳小地域ふれあいタイム」が、子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域の方の楽しみややりがい、生きがいとなり、「学校を核とした地域づくり」につながる魅力的な地域学校協働活動となっていることが伺えます。今後の展開がとても楽しみです。

